

住友理工、CASE 特設ページを開設

～100年に一度の自動車革命「CASE」対応を加速～

住友理工株式会社（本社：名古屋市中村区、代表取締役 執行役員社長：清水和志）は4月1日（木）、当社コーポレートサイトに「CASE¹」に関する特設ページを開設しました。「素材を描き、未来を創る。～Innovation by Materials～」をテーマに、自動車（モビリティ）分野での新技術・新製品・新サービスにフォーカスして、当社グループの取り組みを紹介。4月下旬に関連動画をアップし、5月上旬には英語ページも公開予定です。



CASE 特設ページ <https://www.sumitomoriko.co.jp/rd/strategy/>

気候変動問題が、人類の差し迫った危機と全世界で広く認識されるようになった昨今、日本でも政府が昨年、2050年までに温室効果ガスの排出を実質ゼロにする「カーボンニュートラル」を宣言しました。私たち住友理工グループが主な事業活動を展開する自動車業界でも、脱炭素型クルマ社会の実現を目指す動きが加速しています。「Electric：電動化」にとどまらず、100年に一度の大変革「CASE」の波が押し寄せており、当社グループにおいてもCASE対応は喫緊の課題となっています。

※ ¹ 「C：Connected（つながる）」 「A：Autonomous（自動運転）」 「S：Shared & Services（シェアリング）」 「E：Electric（電動化）」

こうした中、当社グループがCASEを大きなチャンスととらえ、協業先を模索しながら、さらなる事業拡大を図っていることを広く伝えるため、このたび、本コンテンツを制作。モノづくりの“川上”である素材から、“川下”である最終製品まで手掛けるユニークな自動車向けシステムサプライヤーとして、特に強みである「素材力」を打ち出した構成としています。

「CASEを加速させる住友理工のテクノロジー」として、「Autonomous:自動運転」では<センシング>、「Electric:電動化」では<熱制御> <シーリング> <音・振動制御>の計4領域のテクノロジーに焦点を当てました。自動車メーカーでの採用が決まった自動運転支援デバイス「ステアリングタッチセンサー」、極めて難しい材料の塗料化に成功した断熱材「ファインシュライト™」などの新製品はもとより、主力の防振ゴムやホース、制遮音品といった既存の事業分野で注力する未来の製品群も紹介しています。本コンテンツを通じて、CASEに対する当社グループの取り組みの全体像をご理解いただけます。



熱制御技術の紹介ページ

次世代のモビリティ、そして新しい世界を切り開く、住友理工グループの取り組みをこの機会にご覧ください。

<CASE 特設ページ「素材を描き、未来を創る。～Innovation by Materials～」>

URL : <https://www.sumitomoriko.co.jp/rd/strategy/>

以上

--- 住友理工について ---

住友理工は1929年に創業し、名古屋市市中村区に本社を置くモノづくり企業です。2014年に東海ゴム工業から社名を変更しました。自動車（モビリティ）分野では、振動を制御する世界トップシェアの防振ゴムのほか、ゴム・樹脂ホースや、ウレタン製の制遮音品・内装品を製造。自動車部品の開発で培った技術を生かし、インフラ・住環境、エレクトロニクス、ヘルスケアの各分野でも事業を展開しています。世界20ヶ国以上に広がるグローバルネットワークを活用して、人・社会・地球の安全・快適・環境に貢献する“Global Excellent Manufacturing Company”を目指しています。

リリースに関するお問い合わせ先
住友理工株式会社

広報IR部 / 〒450-6316 名古屋市市中村区名駅一丁目1番1号 JPタワー名古屋
tel 052-571-0259 e-mail product.info@jp.sumitomoriko.com <https://www.sumitomoriko.co.jp/>